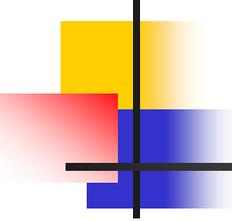


Ferrais and Watanabe (2008)

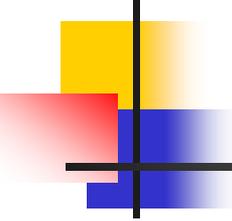
論文へのコメント

関西大学 清水 崇



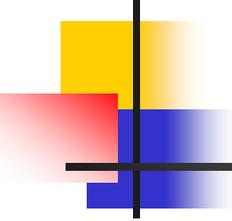
論文の目的

- Lagos-Wright (2005)を利用して、inflationが流動性制約を通じて実物経済に与える影響を分析



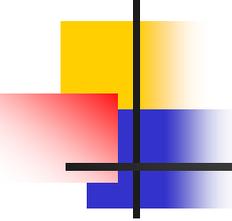
Lagos-Wright の設定

- Day market (search market): 貨幣の交換手段としての機能を描写
- Night market (Walras market): 貨幣保有量を調整
- 貨幣保有分布が退化し, 分析が容易に



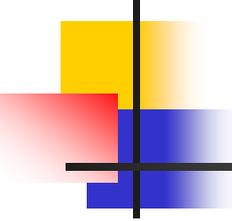
当論文の設定

- Morning market: 債券市場
- Afternoon market: 財市場
- Evening market: 貨幣量の調整
- それぞれの市場が情報的に分断されているのがモデルの本質
- 貨幣の必要性



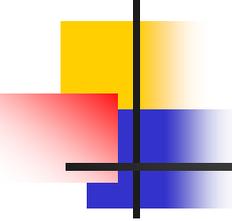
Morning market

- 財を q_1 投資
 - morning: $g(q_1)$ の実物収益
 - afternoon: $(1-\delta)g(q_1)$ の実物収益
←投資家は捕捉できない！
- 過少投資の可能性
- 支払い手段としての貨幣



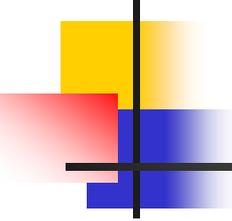
流動性制約

- $q_1 \leq g(q_1) + \theta \varphi m$
 - m : 企業家の貨幣保有量
 - φ : evening marketでの貨幣価値
 - $0 \leq \theta \leq 1$



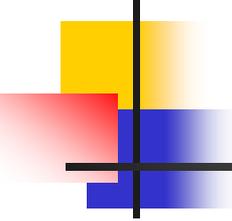
論文の結論

- フリードマン・ルールが成立
- δ が小さいとき流動性制約が効く場合あり
- インフレ率が投資に与える影響
 - $\pi < \hat{\pi}$: 負の影響
 - $\pi \geq \hat{\pi}$: 影響なし
- Boyd et al. (2001)の結果と整合的



モデリングについて

- Afternoon marketは必要か？
 - Afternoon marketの存在意義＝制約「 $\theta \leq 1$ 」がirrelevant
- 貨幣の二重の役割
 - Morning marketでの支払い手段
 - Afternoon marketでの交換手段
- Afternoon marketがない方が簡明では？



貢献について

- 貢献についてあまり議論されていない
- Boyd et al.と統合的な理論モデルは他にないのか？
- あるとすれば、他のモデルと比べて当モデルの勝る点は何か？